

令和 7 年 6 月 24 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2022～2024

課題番号：22K03090

研究課題名（和文）授業外学習への動機づけの変化プロセスに基づく自律的な学習支援の提案

研究課題名（英文）Autonomous learning support based on the change process of motivation for out-of-class learning

研究代表者

梅本 貴豊（Umemoto, Takatoyo）

京都外国語大学・共通教育機構・准教授

研究者番号：50742798

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は大学生を対象に、授業外学習への動機づけの変化プロセスに基づき、自律的な学習支援の提案を目的とした。まず、授業外学習の動機づけを測定する尺度を作成し、面白さや楽しさ、重要性や有用性に基づく自律的動機づけが、積極的な行動やポジティブな感情を促進することを確認した。次に、授業外学習への自律的動機づけが高まることによって、自律性への欲求充足が低下するという個人内プロセスが示された。最後に、授業内容への価値づけが自律的な動機づけを促進するという研究結果に基づき、学習内容の価値を強調するような授業介入を行ったが、動機づけは促進されず、介入方法および対象とする授業の特徴を考慮することが課題とされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、縦断的な調査に基づいて、授業外学習の動機づけと他の変数との関連を検討した。これにより、従来の研究とは異なり、変数の変化同士の関連の検討や、変数間の因果関係の検討を行うことができた。特に、授業外学習の動機づけの変化と心理的欲求充足の変化の関連を個人内プロセスに基づいて検討した結果、個人間関連に基づく研究結果とは真逆の結果が得られた。このような新しい発見は、動機づけ研究の発展に貢献するという意味で学術的な意義をもつ。また、変数間の因果関係を明らかにすることで、教育場面におけるより妥当で効果的な学習支援の提案が可能となるため、社会的な意義も大きいと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to propose autonomous learning support for university students based on the process of change in their motivation for out-of-class learning. First, we developed a scale to measure motivation for out-of-class learning, and confirmed that autonomous motivation based on interest, enjoyment, importance, and usefulness promotes learning engagement and positive emotions during out-of-class learning. Next, an intra-individual process was shown in which increased autonomous motivation for out-of-class learning decreases autonomy need satisfaction. Finally, based on the research findings that valuing class content promotes autonomous motivation, a class intervention that emphasized the value of the learning content was conducted; however, motivation was not promoted, and future research is needed to consider the intervention method and the characteristics of the targeted classes.

研究分野：教育心理学

キーワード：動機づけ 授業外学習 エンゲージメント 自律的学習 学習支援 縦断的調査 個人内関連

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

学校での学習とは、授業内で完結するものではない。「授業外での学び」と有機的に結びついて、深まっていくものである。つまり、知識や理解を深めるためには、授業内に加えて授業外で自律的に学習することが非常に重要である。そして特に、主に一人で取り組む必要がある授業外学習を自律的・積極的に行うためには、わが国の教育において育成を目指す資質・能力の1つである「学びに向かう力」として位置づけられる「動機づけ」が重要な役割を果たす。これまでの研究において動機づけは、1時点の測定による比較的安定的な側面のみが扱われることが多かったが、近年では動機づけの時間的な変化に着目することが増えてきている(岡田他, 2021)。動機づけとは常に一定の高さで維持されるものではなく、高まったり低まったりとダイナミックな変化を示すものである。つまり、自律的な学びのプロセスを解明するためには、授業外学習の動機づけの変化という観点を考慮し、授業外学習と授業内学習がどのように関連しあっているのかを時間軸に沿って精緻に検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで十分に検討されてこなかった、縦断的な調査を通じた授業外学習の動機づけの変化に着目して学習プロセスを解明し、それらの知見に基づいて自律的な学びを支援することである。そのため、以下の3つの観点について検討を行う。

(1) 1年目の研究では、授業外学習の動機づけが自律的な学習にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とした。

(2) 2年目の研究では、先行要因の変化が、授業外学習の動機づけの変化にどのような影響を与えるのかといった個人内プロセスを明らかにすることを目的とした。

(3) 3年目の研究では、授業外学習の動機づけの促進を目指した授業介入実践を行い、その効果を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) まず、自己決定理論に基づき、授業外学習の動機づけを測定する尺度を作成し、妥当性と信頼性を検証したうえで、授業外学習の動機づけと授業外学習への積極的な取り組みとの関連を検討した。293名の大学生を対象に2時点の調査を行い、授業外学習の動機づけ、行動的および感情的エンゲージメントを測定した。その際に、授業外学習課題のタイプによってそれらの関連が異なるのかどうかについても検討を行った。授業外学習の動機づけは、大学の必修授業における授業外の課題(宿題)への取り組みに対する動機づけとして測定した。

次に、大学のゼミ形式の授業科目における、授業外でのレジュメ作成課題における動機づけと授業内外での学習との関連について検討を行った。各学生は、授業ではレジュメに基づいて、20分から30分程度の発表および質疑応答を行った。質問紙による調査を行い、40名のデータを分析対象とした。質問紙では、レジュメ作成課題に対する動機づけに加えて、授業外課題の自己評価、授業内発表の自己評価、授業科目全体に関わるテーマである「研究すること」への理解の深まり、課題への取り組みの振り返り(自由記述)を測定した。

(2) 授業外学習の動機づけに影響を与える要因として、自己決定理論に基づき3つの心理的欲求(自律性、関係性、有能性)の充足を取り上げ、授業外学習の動機づけとの個人間関連および個人内関連について検討を行った。大学生を対象に、3時点のオンラインによる調査を行い、496名のデータを分析対象とした。授業外学習の動機づけは、大学の必修授業における授業外の課題(宿題)への取り組みに対する動機づけとして測定した。

(3) 授業外学習への動機づけの促進の検討を目的とし、2つの研究を行った。まず、200名の大学生を対象に、3時点の縦断的なオンライン調査を行い、授業内容への価値づけと授業外学習における有用性や重要性に基づく動機づけである同一化調整との関連を検討した。その際、授業外課題の種類によって、その関連が異なるかどうかについても検討した。授業外学習の動機づけは、大学の必修授業における授業外の課題(宿題)への取り組みに対する動機づけとして測定した。

次に、2回のレポート課題を課す資格(教員免許状)取得に関わる大学の授業において、13名の大学生を対象に、授業内容の価値に働きかけることで授業外学習への同一化調整を促す授業介入実践を行った。効果の検証のために、3回の質問紙による縦断的な調査を行った。具体的

は、レポート課題を課す前に1回目の調査を実施し、1回目のレポート終了後に2回目の調査を実施した。そして、授業内において3週にわたって授業内容の価値を強調するような介入を行い、1回目と同様の内容のレポート課題を課した。この2回目のレポート課題終了後に、3回目の調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 先行研究を参考に授業外学習の動機づけを測定する尺度を作成し、想定通りの4因子が確認された。具体的には、学習の面白さや楽しさに基づく内的調整、重要性や有用性に基づく同一化調整、恥の意識や自己価値の維持に基づく取り入れ調整、外部からの圧力に基づく外的調整である。また、下位尺度間の相関や係数から、尺度の妥当性および信頼性を確認した。そして、課題のタイプ(理解や記憶に基づく課題、創造性に基づく課題)を調整変数として、クロスラグパネルモデルによる多母集団同時分析を行った。課題間でパス係数を自由推定したモデルと、パス係数に等値制約を置いたモデルの適合度を比較し、後者を選択した。これは、課題のタイプによって変数間の関連は異なるものではないことを示している。

分析の結果、まず、調査1回目の内的調整と調査2回目の感情的エンゲージメントとの間に正の関連が示された。次に、調査1回目の同一化調整および取り入れ調整と調査2回目の行動的エンゲージメントとの間に正の関連が示された。最後に、調査1回目の感情的エンゲージメントと調査2回目の内的調整との間に正の関連が示された。この結果から、積極的な授業外学習を促進するために、授業外学習の動機づけに着目する有用性が明らかとなった。特にパス係数の値から、内的調整および同一化調整の重要性が示唆された。

次に、ゼミ科目における授業外でのレジュメ作成課題における動機づけと学習との関連について検討を行った結果、有意傾向ではあるが、同一化調整は課題の出来の自己評価との間に正の関連を示した。また、同一化調整は、授業科目全体に関わるテーマである「研究すること」への理解の深まりとの間に正の関連を示した。さらに、偏順位相関分析の結果、課題の振り返りの量的側面に対しては、内的調整が正の関連を、有意傾向ではあるが外的調整が負の関連を示した。そして、課題の振り返りの質的側面に対しては、同一化調整が正の関連を、有意傾向ではあるが取り入れ調整が負の関連を示した。以上より、自律的な動機づけである内的調整と同一化調整では、変数との関連異なることが示された。特に、授業外学習における同一化調整が、より自律的な学習に結びつく可能性が示された。

(2) 3時点の縦断データに対して、交差遅延パネルモデル(CLPM)を用いて個人間関連を、ランダム切片交差遅延パネルモデル(RI-CLPM)を用いて個人内関連を検討した。CLPMの結果、有能性欲求の充足が、次の時点の自律的な動機づけに正の関連を示した。これは、3つの心理的欲求の中でも特に、有能性を高めるような支援が授業外学習の動機づけに対して重要であることを示している。また、自律的な動機づけが、次の時点の3つの欲求に正の関連を示した。個人間においては、授業外学習の動機づけと心理的欲求充足との相互関連が明らかにされた。

次に、RI-CLPMの結果、3つの心理的欲求は、次の時点の自律的な動機づけに関連を示さなかった。一方で、自律的な動機づけは、次の時点の自律性欲求の充足に負の関連を示した。この結果は、授業外学習に自律的に取り組むほど、自律性の欲求を満たす基準が個人内で高まっていくため、相対的に欲求の充足が低下していったものと考えられる。つまり、授業外学習に自律的に取り組む大学生に対しては、徐々に自律性支援の量を増やし、質を高めていく必要があると考えられる。特に個人内関連を検討することによって、より内的な学習プロセスについて精緻に検討することができた。

(3) 3時点の縦断データに対して、CLPMを用いて変数間の関連を検討した。その結果、授業外学習としてレポート課題やプレゼン作成などのアウトプット型の課題を課す場合において、授業内容への価値づけが同一化調整を促進する可能性が示された。一方で、資料を読んだり問題を解いたりといった理解や記憶に関するインプット型の課題を課す場合は、そういった関連がみられなかった。

上記の結果に基づき、レポート課題を課す授業において、授業内で内容の価値を強調するような介入実践を行った。その結果、介入による授業内容への価値づけは変化せず、また、同一化調整の促進もみられなかった。つまり、ただ単に授業内で内容の価値を強調するだけでは同一化調整の促進は困難であり、例えば課題価値研究においてみられるような、学生自身で主体的に価値を考えさせるようなアプローチが必要であると考えられる。さらに、今回は資格の取得に必要な授業であり、介入前から学生の授業内容への価値づけが高かったため、変化が見られなかった可能性が高い。そのため、様々なタイプの授業を対象に、効果の検証を行っていくことが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 梅本貴豊・亀本晃平・稲垣勉	4. 巻 8
2. 論文標題 中学生の家庭での英語学習における動機づけと学習への取り組みの関連 - 単語学習と文法学習に着目した検討 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育テスト研究センター年報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Umemoto Takatoyo, Inagaki Tsutomu	4. 巻 13
2. 論文標題 Relationships Between Achievement Goals, Motivation Instability, and Learning Persistence in Asynchronous Distance Classes	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SAGE Open	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/21582440231219075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Umemoto Takatoyo, Inagaki Tsutomu	4. 巻 7
2. 論文標題 A longitudinal study of the relationship between contextual motivation and situational motivation in a school learning setting: Assessing motivation level and instability	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育テスト研究センター年報	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Umemoto Takatoyo, Inagaki Tsutomu	4. 巻 133
2. 論文標題 Inter- and intraindividual relationships between motivation for out-of-class learning and basic psychological need satisfaction among Japanese university students	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Research	6. 最初と最後の頁 102684
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijer.2025.102684	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umemoto Takatoyo, Inagaki Tsutomu	4. 巻 14
2. 論文標題 Reciprocal Relationship Between Motivation and Engagement in Out-of-Class Learning Among Japanese Undergraduates	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 Journal of Education and Learning	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5539/jel.v14n1p1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 梅本貴豊・稲垣勉
2. 発表標題 大学生における授業外学習への動機づけ
3. 学会等名 日本教育心理学会第65回総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 梅本貴豊・稲垣勉
2. 発表標題 マスタリー目標と動機づけの変動性の個人内関連 ランダム切片交差遅延パネルモデルを用いた検討
3. 学会等名 日本心理学会第87回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 梅本貴豊・亀本晃平
2. 発表標題 中学生における家庭での英語学習 単語学習と文法学習に着目した検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第64回総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梅本貴豊・亀本晃平
2. 発表標題 中学生の家庭での英語学習における自律的動機づけと学習方法との関連 自由記述データに着目した検討
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梅本貴豊・稲垣勉
2. 発表標題 大学生における授業外学習の動機づけと心理的欲求の充足との個人内関連
3. 学会等名 日本教育心理学会第66回総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 梅本貴豊・稲垣勉
2. 発表標題 大学生における授業外学習の動機づけとエンゲージメントの相互関連
3. 学会等名 日本心理学会第88回大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	稲垣 勉 (Inagaki Tsutomu) (30584586)	京都外国語大学・共通教育機構・准教授 (34302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------